

スーパーFJもてぎ選手権開幕戦でデビューウイン。冷静な走りで総合優勝目指す。

一流のドライバーになり

いつかふるさとに

恩返しをしたい。



# 栃

木県を拠点とするレーシングチーム「ル・ポワセモータースポーツ」に

所属する小倉祥太さんが、3月12日、フォーミュラーカーレースのデビュー戦となったスーパーFJもてぎ選手権開幕戦（ツインリンクもてぎ）で、見事、優勝を果たしました。小倉さんは、バイクレースをして



# 小倉祥太

東大清水  
18歳

いた父親の影響で、小さい頃から車に興味を持つようになり、モータラ  
ンド川俣（山木屋・現在休業中）な  
どでカートレースを観戦するうちに、  
自分でカートを運転したいという気  
持ちは抱くようになったそうです。

そして、小学生4年生の時、父親  
の「レースやってみないか」という  
ひと言から、小倉さんのレース漬け  
の毎日が始まりました。

「小さい頃から、父は私に車のおも  
ちばかり与えていました。いま思  
えば、父は私に、自分と同じレース  
の道に進んでほしいという気持ち  
があったのかもしれない。でも、バ  
イクよりは車の方が安全だという親  
心で、車になったのだと思います。  
また、両親がいない時も祖父がモ  
ターランド川俣に連れていってく  
れたり、私がプロのドライバーにな  
ることは、私だけでなく、家族の夢だ  
たのかもしれない。小学6年生の  
時には、本格的にモーターランド川  
俣や宮城県スポーツランドSUGO  
のカートレースシリーズに参戦し、  
それから、毎日、ほとんどレース  
のことしか考えていません」と笑  
います。

そもそも、現在、小倉さんが参戦

するスーパーFJとはどのようなもの  
なのでしょう。

「簡単に言うと、日本のフォーミュ  
ラーカートのカテゴリー名です。ス  
ーパーFJは、プロを目指す若いドライ  
バーが集う入門カテゴリーで、実績  
を積むことで、F4、F3、そして、日  
本のトッププロカテゴリーである  
スーパーフォーミュラへとステップ  
アップすることができます。私は、  
昨年、若手育成に力を入れる現チー  
ムに練習生として参加し、力が認め  
られ、メンバーとして加入するこ  
とができました。私が高校2年生まで  
乗っていたカートと、今乗っている  
フォーミュラーカーは別物で、練習  
を積むことで、これからまだまだ速  
くなれると思います」。



△トップチェッカーを受けた後、  
ピットに戻り喜びを表す小倉さん。

これまでのカートレースシリーズ  
では、全国大会での60台抜きや全国  
2位など、数々の歴史を刻んできた  
小倉さんですが、今回のフォーミュ

ラーカーレースデビュー戦での優勝  
は、格別だったそうです。

「もちろん優勝は狙ってしました  
が、デビューレースはどのレーサー  
でも一度きりですので、本当に貴重  
な経験ができました。大会は9月ま  
での全5戦の総合ポイントで競われ  
ます。残り4戦も優勝し、全勝優勝  
での総合優勝を狙います。そして、  
今年11月に三重県で開催される日本  
一決定戦に出場し、優勝したいです」  
と、小倉さんは力強く語ります。

最後に、小倉さんは自分の将来に  
ついて「ここまでこれたのは、自分  
の努力だけでなく、いろんな面で全  
面的に支えてくれた家族、そして友  
人や町のみなさんのおかげです。初  
めてハンドルを握った時から、プロ  
のレーシングドライバーを夢見て生  
きてきました。これからの道のりも  
決して簡単ではありませんが、今後  
も結果を残し、ステップアップし、  
一流のレーシングドライバーにな  
りたいです。そして、いつかまた、今  
度はプロのレーシングドライバーと  
して、思い出の詰まったスポーツラ  
ンド川俣のコースを走ることができ  
たら最高ですね」と落ち着いたま  
なざしで語ってくれました。



OGURA  
SHOTA

18